

田無第三中学校の親校になる可能性のある小学校 比較表

学校名	①中原小学校（建替後）	②けやき小学校	③住吉小学校	④谷戸小学校
説明	新たに整備する中原小学校の給食室を、予め田無第三中学校の親校として設計する案	田無第三中学校に隣接するけやき小学校を田無第三中学校の親校として施設改修する案	ひばりが丘中学校の自校式給食の開始に伴い、その親校としての機能を活用して、田無第三中学校の親校とする案	親校としての機能を有している小学校のうち、最も田無第三中学校に隣接する谷戸小学校を田無第三中学校の親校とする案
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 最短で、平成 32 年度三学期から親校の変更ができる。 既存の親校よりも、無理のなし施設で給食提供ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 田無第三中学校からの距離が最も近い。 けやき小学校の卒業生のほとんどが、田無第三中学校に進学する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の設備を有効活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の設備を有効活用できる。 住吉小学校から、田無第二中学校に進学する生徒がいる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 中原小学校の建替えに伴う初期費用が、単独校給食室よりも高額になる。 中原小学校の児童数は 800 人程度のため、田無第三中学校分 (350 人程度) を合わせると、1,150 食を超える大規模校となる。 田無小学校と住吉小学校の設備が余剰となる。 中原小学校から、田無第三中学校に進学する生徒はいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 田無小学校と住吉小学校の設備が余剰となっている状態になる上に、けやき小学校を親校とするための整備が必要（親校給食の整備には、平均して一つの小学校につき 8,380 万円程度かかった）。 	<ul style="list-style-type: none"> H33 年度一学期までは、ひばりが丘中学校の親校であり、田無小学校は H33 年度一学期まで、田無第三中学校の親校としての機能を果たすための設備が必要。 田無第三中学校との距離が、4 校中最も遠く、配送業務の委託料に影響がある。 住吉小学校から田無第三中学校に進学する生徒はいない。 	<ul style="list-style-type: none"> H33 年度一学期までは、田無第二中学校の親校であり、田無小学校は H33 年度一学期まで、田無第三中学校の親校としての機能を果たすための設備が必要。 2 校同時に親校の変更をするため、調整を慎重に行う必要がある。 谷戸小学校から田無第三中学校に進学する生徒はいない。